

市町村制度融資担当者に聞く

中小企業の未来をひらく

中之条町
NAKANOJOU TOWN

制度融資

地方創生の流れの中で、地域経済において市町村が果たす役割が、これまで以上に大きくなってきています。本連載では、群馬県内各市町村の、制度融資担当者に登場していただき、制度融資を中心に、中小企業施策全般について、考え方や方向性、具体的な施策等をお伺いします。
今回は、中之条町観光商工課を訪れ、関口課長と唐澤主任にお話を聞いてきました。



GUEST

関口信一 様

観光商工課
課長

唐澤直子 様

観光商工課
主任



観光商工課の皆さま
左から、中沢係長、安力川主任、
関口課長、唐澤主任

Q. 中小企業施策の基本的コンセプト・考え方等をお教えてください。

本町は、県北西部に位置し、新潟県・長野県との県境の町です。平成22年に旧六合村と合併し、面積は県内で4番目の大きさとなりました。面積の8割以上を森林が占めていて、標高2,000m級の山々に囲まれた高原地帯から盆地、河岸段丘、丘陵地と景観も様々で、多様性に富んだ自然環境や動植物を見ることができます。

県民の方には、上毛かるたで「世のちり洗う四万温泉」でお馴染みの四万温泉をはじめ、町内には9つの温泉があり古くから観光客を癒してきました。

平成25年にラムサール条約に登録された「芳ヶ平湿地群」は本町と草津町にまたがる日本屈指の湿原で、希少な動植物の宝庫として年々訪れる方が増えています。湿地群にも含まれる「チャップミゴケ公園」は幻想的なコケの風景を求める多くの方で賑わっています。

また、現代アートを町中に展示する「中之条ピエンナール」や廃校になった中学校で映画上映を行う「伊参スタジオ映画祭」など文化的なイベントを通したまちづくりも行われており、県外からはもちろんのこと、海外からの観光客を見かける機会が増えています。

町の中小企業施策としては、経済の基盤となる中小企業を支えるために、制度融資を核にした経営の安定化を支援してきました。人口減少や少子高齢化などの社会変化から事業者数は年々減少していますが、商店街や温泉街で空き店舗を活用したチャレンジショップ事業などを通して新しく事業を始める人を支援しています。

Q. 中小企業向け制度融資メニューをお教えてください。

本町では、群馬県と提携した小口資金融資制度を実施しています。

町内の中小企業に対して、運転資金、設備資金の融資をするもので、特徴的なこととして、小口資金を利用している方で町内に居住している方に対しては貸付利率の一部を町が補助しています。

主な制度融資の保証実績 (単位:件、千円)

制度名	年度	保証承諾		保証債務残高	
		件数	金額	件数	金額
小口資金	28年度	24	154,156	99	384,765
	30年2月末	13	61,227	92	341,178

Q. 制度融資以外の、中小企業や創業者向けの施策を教えてください。

本町では、創業者支援として平成27年度より創業支援事業計画を策定しています。

観光商工課が窓口となり、創業希望者の相談を商工会、金融機関とが連携して受け支援しています。

まだこの計画に位置づけられる特定創業支援事業を利用して創業する方は少ないですが、商工会、金融機関と連携をして周知していきたいと考えています。

また、町内の空き店舗を商業施設や事務所として利用する創業者向けに「チャレンジショップ出店支援事業」を設けています。創業者が町内の空き店舗を賃借し、新たに事業を始める時に、店舗の改修費とその店舗賃借料の一部を補助します。チャレンジショップ出店事業を使って創業する方は年々増えており、中之条町で新たに事業を始める方の後押しになっています。

Q. 今後の中小企業施策や制度融資に対する思いを教えてください。

町内の中小企業に制度融資を積極的に活用して頂けるように、今後も信用保証協会、地域の金融機関・商工会等の関係団体の皆様と連携して推進していきたいと考えています。

産業全体に繋がる問題として、人口減少や少子高齢化の影響を大きく受け、後継者がいなかったり、人材が集まらなかったりと、温泉旅館を中心に労働力不足が顕著になってきています。こういった背景から、やむなく自主廃業を選択する企業も出てきており、町内の事業者数は年々減少しています。町の経済を支えているのは、やはり中小企業の経済活動であり、このように事業者が減少していく事態は、町全体にとっても大きな損失だと懸念しています。これからは、事業者の経営改善支援はもちろんですが、事業承継の面も含めた支援策が必要だと感じています。